

## ファッションデザインコースの軌跡

能登原 英 代

### 1. はじめに

『香川短期大学紀要創立50周年記念号』発刊の年は、奇しくも香川短期大学生活文化学科生活文化専攻ファッションデザインコースが幕を閉じる年となった。そこで、この期に15年間の教育活動を記録するものとする。まず、ファッションデザインコースの成り立ちと就職先等について記述する。次いで、教育目標・カリキュラム編成・教育活動の順に述べる。

### 2. ファッションデザインコースの成り立ち

香川短期大学家政科の沿革（表1）に示すように、生活文化学科生活文化専攻ファッションデザインコースは、香川短期大学創立当初である1967年に認可された家政科を前身としている。生活文化コース・生活情報コースに追隨するかたちで、2002年にファッション文化コースとして生活文化専攻に設置され、2013年に「ファッションデザインコース」と改称された。（以下ファッションDコースと記す）

### 3. ファッションデザインコースの入学状況と就職状況

ファッションDコース入学者数は15年間で通算約160名である。生活文化専攻（定員40名）の入学時

点におけるファッションDコース在籍割合を表2に示す。就職状況は、「ファッション関係」が1/3、「一般事務」が1/4弱、「その他」の職種には「医療事務」が含まれている。（図1）

表1 香川短期大学家政科の沿革

年	香川短期大学家政科の沿革
1967年	家政科設置認可
1968年	家政科を家政専攻と食物栄養専攻に分離認可
1972年	家政科家政専攻に家政コース及び生活デザインコース設置
1979年	家政科家政専攻家政コースを生活科学コースに改称
1984年	家政科家政専攻に情報処理コース設置
1988年	家政科家政専攻を生活文化学科生活文化専攻に改称し、生活科学コース・生活美術コース・生活情報コースを設置
1992年	生活文化専攻生活美術コースをデザインコースに改称
1994年	生活文化専攻生活科学コースを生活文化コースに改称
2002年	生活文化専攻にファッション文化コースを設置 生活文化専攻デザインコースを募集停止し、経営情報科に産業デザインコースを設置
2013年	生活文化専攻の生活文化・ファッション文化・生活情報の3コースを、それぞれクリエイティブライフ・ファッションデザイン・ライフプランニングに改称
2017年	生活文化専攻の3コースを廃止し、生活文化専攻を一本化
2018年	生活文化専攻募集停止

平成29年1月6日受理

連絡先 〒769-0201 香川県綾歌郡宇多津町浜一番丁10番地

香川短期大学 生活文化学科

TEL 0877(49)8043 FAX 0877(49)5252

Email notohara@kjc.ac.jp

表2 生活文化専攻におけるファッションDコース在籍人数の割合（入学時点）

年度	在籍人数 (%)	年度	在籍人数 (%)
2002年	42	2010年	28
2003年	33	2011年	32
2004年	35	2012年	30
2005年	36	2013年	25
2006年	31	2014年	37
2007年	24	2015年	20
2008年	27	2016年	11
2009年	20		

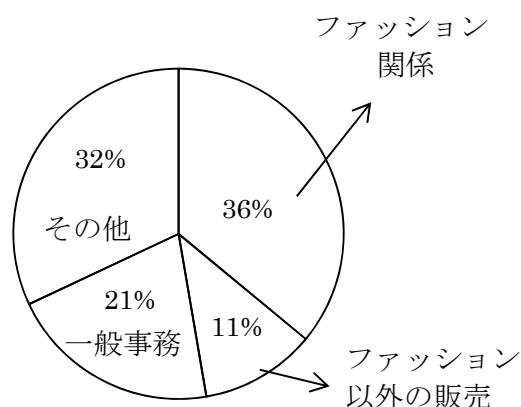


図1 ファッションDコースの就職状況

#### 4. 教育目標と三つのポリシー

##### 1) 生活文化学科生活文化専攻の教育目標

ファッションDコースが所属する生活文化学科生活文化専攻の教育目標を表3に示す。

##### 2) ファッションDコース「三つのポリシー」

本学では、学生が教育目標を達成し十分に成長できるよう、入学者受け入れから卒業までの学生に対する基本方針として、学科・専攻課程ごとに「三つのポリシー」を定めている。<sup>8)</sup> この「三つのポリシー」とは、アドミッションポリシー（入学者受け入れの方針）、カリキュラムポリシー（教育課程編成・実施の方針）、ディプロマポリシー（学位授与の方針）である。そして、各ポリシーの内容は、①知識・理解②思考・判断・表現③関心・意欲・態度④技能の四つの要素を満たすように配慮されている。表4に、ファッションデザインコース「三つのポリシー」を示す。

#### 5. ファッションデザインコースのカリキュラム

##### 1) ファッションDコースのカリキュラムの特徴

本学のカリキュラムは、建学の精神と教育目的に基づき、学生の豊かな人間性と自己確立を促進し、それぞれの専門とする分野の知識、技術の向上を図るために、全学共通の「共通科目」と学科・専攻課程ごとの「専門教育科目」の二つの大きな柱を軸にカリキュラムを構成している。<sup>8)</sup> そして、本学が

表3 生活文化学科生活文化専攻の教育目標

##### 生活文化学科の教育目標

- ①日本文化の継承と創造を図ることができる、教養豊かな人材の養成
- ②専門的知識と技術を身につけ、即戦力となる人材の養成
- ③社会性を身につけ、相手を理解し、自分の意見のもてる人材の養成

##### 生活文化学科生活文化専攻の教育目標

- ①日本文化に関する知識と技術を磨き、心豊かな生活ができる人材の養成
- ②ファッションの感性と技術を磨き、生活をトータルにコーディネートできる人材の養成
- ③情報処理の知識と技術を磨き、生活に活用できる人材の養成

政科の沿革（表1）で示すとおり、ファッションDコースの前身は家政科であり、2013年に名称変更されるまでの約10年間はファッション文化コースである。

その経緯により、本学ファッションDコースのカリキュラムの特徴は、卒業後の就職先としてファッション系だけでなく一般事務や医療事務への就職にも対応した編成になっていることであり、全学共通の「共通科目」と三つの科目群から成る「専門教育科目」で構成されていると言える。<sup>7)</sup>「共通科目」とは、一般教育科目・外国語科目・保健体育科目であ

り、「専門教育科目」の三つの科目群とは「ファッション文化に関する科目群」「生活・文化・健康・福祉に関する科目群」「キャリア支援科目群」である。（図2）

ファッションDコースの専門教育カリキュラムの編成は複雑であるため、進路別に「専門教育科目」をファッション関連科目系列とそれ以外の科目系列の二分野に分類して教育体系を示す。すなわち、ファッション系への就職を目指す「ファッション文化に関する科目群」の教育体系（図3）と一般事務・医療事務への就職を目指す教育体系（図4）の二分

表4 ファッションデザインコース「三つのポリシー」

#### アドミッションポリシー

- ① 現代の生活基盤や文化についての知見を学修するために必要な基礎学力を身につけていること
- ② 社会人として必要なスキルや資格に関する情報を収集し、積極的にその修得を目指そうと判断していること
- ③ 人間生活や伝統文化、キャリアスキルの獲得に関わる多様な事柄に関心を持ち、社会人としての資質や能力を高めようとする学習意欲が認められること
- ④ 社会や地域と積極的に関わり、社会人としての倫理観や使命感をもって他者と協調・協働しようとする態度が認められること
- ⑤ 人間生活や伝統文化、キャリアスキルとしての技能を修得するために必要な基礎的技術を身につけていること

#### カリキュラムポリシー

- ① 健康で豊かな生活を創造するために必要な生活・文化・健康・福祉に関する授業科目を通して、生活主体者であることを理解し、基礎的知識を身につける
- ② ファッションの歴史や流行、ファッションデザイン、ファッションコーディネート、ファッションビジネスなどファッションに関する基礎的知識を身につける
- ③ 社会の変化に対応できる思考力、判断力と表現力及び職業人として必要なビジネスマナー、秘書実務、コミュニケーション能力を身につける
- ④ 理論と実践のつながりを意識しながら生活者として必要な生活と文化に関する専門的技術・技能を身につける
- ⑤ アパレル技術における実習・演習を通して被服の素材、構成を理解し、縫製技術を身につける

#### ディプロマポリシー

- ① 生活と文化について理解し、専門分野の基礎的知識を身につけている
- ② 社会の一員として活躍できる豊かな人間性と幅広い教養を身につけている
- ③ より良い生活を提案できる思考力・判断力及び表現力を身につけている
- ④ 地域や組織で円滑な人間関係を構築できるコミュニケーション能力を身につけている
- ⑤ ファッションの流行や多様なニーズに対応できる思考力、判断力及び表現力を身につけている
- ⑥ 社会の変化に対応し、主体的に人生を創造しようとする意欲と態度を身につけている
- ⑦ 生活に必要な実践力を身につけている

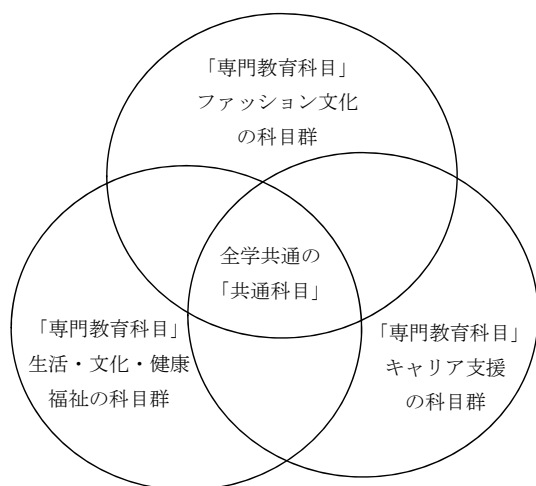


図2 ファッションDコースのカリキュラム構成

野である。カリキュラムは、常に時代のニーズに合わせて改編しているので、15年間における専門教育の代表的なカリキュラム構成を、上記二分野に分類してカリキュラムマップ（「共通科目」は省略）に示す。

カリキュラムマップからわかるように、ファッションDコースの専門教育は、生活文化学科の学科必修科目である「生活概論」と「生活文化論」が基盤となっており、そこから「ファッション文化に関する科目群」と「生活・文化・健康・福祉に関する科目群」「キャリア支援科目群」が、同時進行の形態をとりながら基礎から応用に繋がるように構成されている。学生は、この多岐にわたる科目群の中から自分の進路に合わせて科目を取捨選択する。そして、専門教育の集大成として設置されている科目が「生活文化学演習」（ゼミ活動）である。この「生活文化学演習」は、ファッションDコースを含む三つのコースを有する生活文化専攻全体を対象に開講されている科目で、専任教員が生活工芸・服飾・情報・健康など、それぞれの専門分野を同時に開講し、学生が進路や興味に合わせて選択履修できるように配慮されている。

## 2) ファッションDコースにおける取得可能な資格について

前述のように、ファッションDコースのカリキュラムの特徴は、就職先としてファッション系だけでなく一般事務や医療事務へも対応した編成になっているので、取得可能な資格は、色彩検定・ファッションビジネス能力検定・ファッション販売能力検定・日商PC検定（文書作成）・日商PC検定（データ活用）・秘書技能検定・医療管理秘書士・医療情報事務士・社会福祉主事任用資格・レクリエーション・インストラクターと多岐にわたる。資格に関わる「専門教育科目」を二重四角でカリキュラムマップに示すとともに、日本ファッション教育振興協会主催検定の合格率を表5に示す。ファッション販売能力検定2級については、受験希望のあった年度のみ合格率を記載する。このデータから、ファッションDコース設置から約10年が経過した2010年より、ファッション販売能力検定試験3級の合格率が平均で80%近くに達しており（例外として2014年を除く）、同じ年度より、難易度の高い2級への受験希望者が増えていることがわかる。

## 3) ファッションDコースのゼミ（服飾ゼミ）の特徴

「生活文化学演習」のひとつである服飾ゼミは、ファッションDコースの学生を対象に開講しているゼミである。（以下、「ファッションDコースのゼミ」と記す）ファッションDコースが属する生活文化学科生活文化専攻の教育目標には「ファッションの感性と技術を磨き生活をトータルにコーディネートできる人材の育成」以外に「社会性を身につける」が含まれており、カリキュラムポリシーには「社会の変化に対応できる思考力、判断力、表現力…（略）…コミュニケーション能力を身につける」が掲げられている。ゼミ活動は、この教育目標並びにカリキュラムポリシーに沿って行われている。ファッションDコースのゼミの特徴は、習得した知識と技術の集大成として、毎年学園祭においてファッションショーを開催し制作作品の発表を行うことと、地域の企業や公共団体からの依頼を受けて産官学連携事業として衣裳や作品を制作し、地域交流を行ってきたことである。その他にも、ファッションコンテストに応募することや技能競技に出場する機会を整えた。

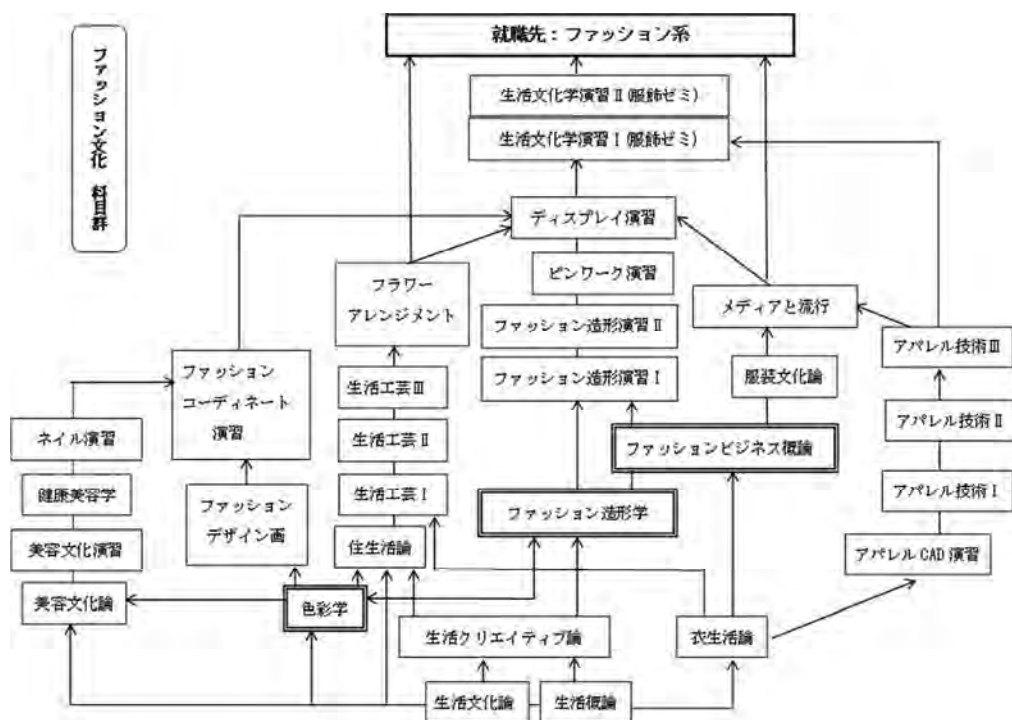


図3 ファッションDコースのカリキュラムマップ(その1)

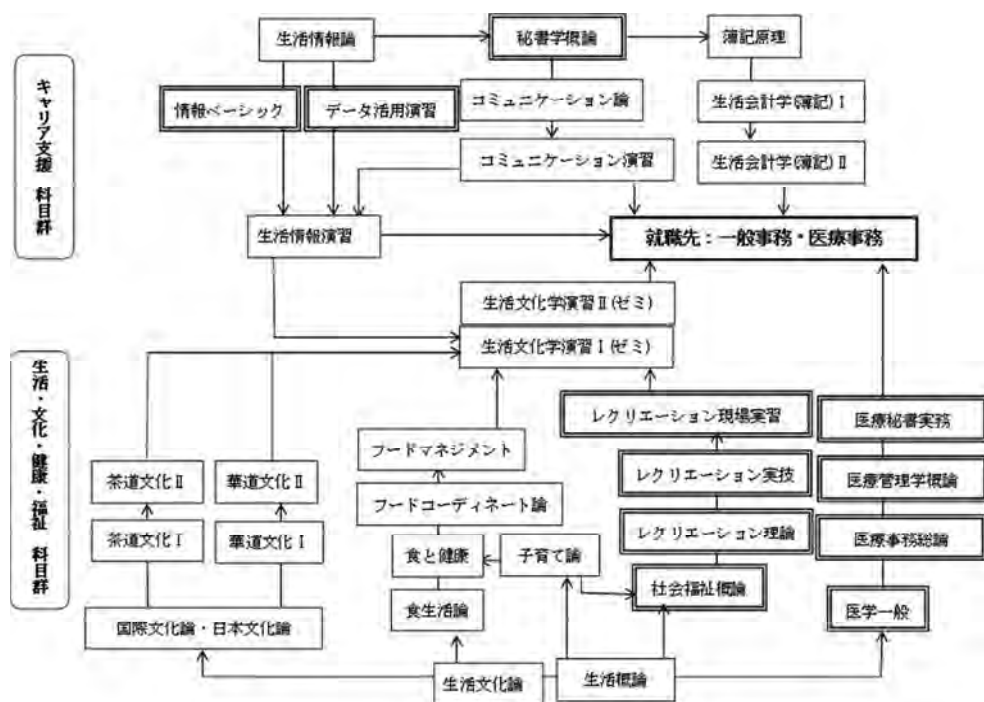


図4 ファッションDコースのカリキュラムマップ（その2）



表5 日本ファッション教育振興協会主催検定の合格率

日本ファッション教育振興協会主催 検定の合格率 合格者数/在籍者数 (%)			
入学年度	ファッション ビジネス能力 検定3級 (%)	ファッション 販売能力検 (%)	
		3級	2級
2002	38	47	
2003	50	58	
2004	15	15	
2005	22	38	10
2006	58	52	
2007	62	25	
2008	50	60	
2009	66	66	
2010	81	90	36
2011	66	88	22
2012	未実施	70	
2013	未実施	66	
2014	未実施	36	
2015	80	80	20

## 6. 学園祭ファッションショーの開催

ゼミにて企画する学園祭ファッションショーは、近年教育界で話題となっているアクティブ・ラーニング形態の授業である。アクティブ・ラーニングとは、学修者主体の学習手法の一つで、学修者が能動的に学修に参加する学習法をさす。ファッションDコースにおいて「アパレル技術」(被服製作実習)を履修する学生たちにとって、自分たちのファッションショーを開催することは入学当初からの目標となっており、カリキュラムの集大成であるゼミでは、学生たちが主体となってファッションショーを企画し、能動的に作品の制作に取り組んできた。そして、卒業制作のドレスを中心に、被服製作実習の作品や生活工芸ゼミに協力いただいて染色Tシャツ・浴衣などを発表した。(写真1) また、産官学連携事業の依頼による衣裳制作を行った年度やコンテスト等特別指導による作品制作を行った年は、これらを中心にファッションショーを構成した。

学生が主体となってファッションショーを企画することによる教育効果は、思考力を育て専門技術を身につけるにとどまらない。毎年、ファッションショーの開催をめぐって、仲間同士の間で人間関係のトラブルが発生する。判断力・表現力が身につくことや社会性とコミュニケーション能力の向上など、その教育効果は多面的で大きい。

## 7. ファッションコンテスト入選及び技能五輪代表出場実績

### 1) ファッションコンテスト入選作品について

ファッションコンテストへの応募は希望者によるものである。コンテストは、デザイン画にて一次審査が行われ、二次審査では制作した衣裳を展示またはショー形態で競う方式が主流である。ファッションDコースのゼミでは、一次審査に合格した学生を対象に個人指導を行ってきた。(表6)

2003年と2006年のコンテストは、テーマパーク主催の人形衣裳のコンテストである。最初の入選(2003年)は、「チボリ公園ベアファッションコンテスト」(岡山県倉敷市)で、チボリベアのぬいぐるみに着せるオリジナル服のデザインを競った。2006年の「レオマおもちゃワールドりかちゃんコンテスト」(香川県丸亀市)では銅賞を受賞した。2005年「ジャパンファッションコンテストin山口」へ入選した学生は藤田いづみさんである。応募作品は古



写真1 学園祭ファッションショー

表6 ファッションコンテスト入選・技能五輪代表出場実績

年	学生	ファッションコンテスト入選・技能五輪代表出場実績
2003年	A	チボリ公園ベアファッションコンテスト入選
2005年	B	ジャパンファッションコンテストin山口入選
2006年	C	レオマおもちゃワールドりかちゃんコンテスト銅賞
2010年	D	高松市市民文化祭“生活文化フェスティバル” New Life Fashion Contest 高松市長賞
2013年	E	第51回技能五輪全国大会洋裁部門岡山県代表出場

来・現代・未来をイメージして、着物生地とジーンズ生地、そしてポリ塩化ビニルを衣服素材に取り入れたデザインで入選を果たした。ちなみに、このコンテスト審査でモデルを務めたのはクラスメートの中国国籍留学生であった。(写真2) 2010年「高松市市民文化祭アーツフェスタたかまつNew Life Fashion Contest」で、高松市長賞を受賞した学生は太田茉以子さんである。作品のテーマは「脈動」で、母の着物と帯をリフォームしてドレスを制作。「脈動」は、母から娘へDNAの流れを金糸帯の配置で表現して高松市長賞を受賞した。(写真3) このコンテストは、審査員の前で応募作品のプレゼンテーションを行う形式で審査が行われ、高松市市民文化祭開催期間の間、高松市役所1階のロビーで受賞作品が展示された。(写真4)



写真2 ジャパンファッションコンテストin山口



写真3 高松市長賞  
New Life Fashion Contest「脈動」

## 2) 技能五輪代表出場について

2013年、ファッションDコース在籍の丸山真菜美さんが、中央職業能力開発協会主催「第51回技能五輪全国大会洋裁部門」に岡山県代表として出場を果たした。(表6)(写真5)

「技能五輪全国大会」は、青年技能者の技能レベル日本一を競う技能競技大会である。次代を担う青年技能者に努力目標を与えるとともに、大会開催地域の若年者に対し優れた技能にふれる機会を提供すること、そして、技能の重要性・必要性をアピールし、技能尊重機運の醸成を図ることを目的に毎年開催される全国大会である。出場選手は、各都道府県職業能力開発協会等を通じて選抜された原則23歳以下の若者とされている。

出場した学生は、技術指導経験豊富な岡本敏枝先生の協力を得て、平日の空き時間のみならず週末や



写真4 「高松市長賞」作品プレゼンテーション

夏休みにも猛練習を行い県代表に選出された。出場した洋裁部門には各県予選を勝ち抜いた15人がエントリーし、主催者側から与えられた材料と仕様に基づいて女性用スーツの上着を2日間10時間の制限時間内に製作し、技と出来栄を競った。当学生は、地域イベント「うたづの町家とおひなさん」の雛衣裳制作でも活躍し、本学の名声を高めることに貢献した功績を表彰するオリーブ賞（同窓会会長賞）を受賞している。



写真5 第51回技能五輪全国大会に出場

## 8. ファッションデザインコースの地域交流記録

短期大学が、コミュニティカレッジとして果たすべき役割のひとつとして社会貢献機能がある。社会貢献という位置づけではあるが、学生がゼミ活動を通して、企業・公共団体やNPO団体に属する社会人と関わることは、教育目標並びにカリキュラムポリシーに掲げている「社会性とコミュニケーション能力を身につける」という観点から教育的効果は大きいと感じている。また、自分たちの制作した作品や活動がメディアに紹介されることは学生たちにとって貴重な体験となり、充実感として思い出に残る。この節では、本学ファッションDコースが、15年間に深めた地域交流と地域産業の活性化に一役を担った活動を記録する。（表7）

### 1）地域貢献（官学連携事業・非営利団体連携事業）

まず、ファッションDコースのゼミ活動として最初に連携した非営利団体との企画は、（財）丸亀市福祉事業団文化事業部主催の丸亀シティフィルハーモニックオーケストラ「第8回まるがめクラシックギャラリーコンサート」のオペラ衣裳制作である。オペラの演目は、モーツァルト作曲「フィガロの結婚」で、登場人物6人分の衣裳を担当した。この衣

表7 ファッションデザインコース 地域交流の記録

年	ファッションデザインコース地域交流の記録
2007年	宇多津ビブレ&香川短期大学オータムファッションショー
2009年	宇多津ビブレ&香川短期大学スプリングファッションショー
2010年	丸亀市民文化事業 まるがめクラシックギャラリーコンサートのオペラ衣裳制作
2010年	香川短期大学&オークラホテル丸亀ブランドルファッションショー
2011年	香川短期大学&オークラホテル丸亀ブランドルファッションショー
2011年	いきいき生活福祉美容実行委員会主催ヘアファッションショー参加
2011年	NHK松山放送局「燃えろ！五七五学生俳句チャンピオン決定戦」芭蕉帽の制作
2012年	いきいき生活福祉美容実行委員会主催ヘアファッションショー参加
2013年	イオンモール綾川KG情報ブライダル相談会場内卒業制作ドレス展示
2015年	「うたづの町家とおひなさん」実行委員会へ「雛衣裳」制作贈呈
2016年	「うたづの町家とおひなさん」商工会展示企画「現代紙雛」協同制作
2016年	ご当地アイドルステージ衣裳制作「きみともキャンディ」他
2017年	「うたづの町家とおひなさん」商工会展示企画「現代紙雛2」協同制作



裳制作では、18世紀ヨーロッパ貴族衣裳の再現<sup>1) 2)</sup>を行った。(写真6)

2011年から2回にわたって連携開催した事業は、障害者福祉団体とのファッションショーである。NPO法人ライフ「いきいき生活福祉美容実行委員会」が主催したヘアーファッションショー（本学講堂ホールで開催）には、ファッションDコースの学生が制作した衣裳を貸し出し、学生がスタイリストのボランティアとして協力。その趣旨が西日本放送ラジオ「気ままにラジオ」（2011/11/16）にて紹介された。

官学連携事業にファッションDコースが関わったのは、地域イベント「うたづの町家とおひなさん」への作品制作協力である。本学所在地である宇多津町では、2004年より地域のイベントとして毎年3月初めに「うたづの町家とおひなさん」を開催しており、本学は初回より協力参加している。ファッションDコースでは、ゼミ活動として第11回から、主に作品制作の形態で協力している。2015年は「うたづの町家とおひなさん」実行委員会へ雛衣裳を制作<sup>3)</sup>し贈呈した。この衣裳は、男雛・女雛・三人官女・五人囃子の計10着で、イベント開催期間中は地域のダンスチームが着用してダンスを披露、ひな祭りを盛り上げることに貢献した。(写真7)そして、次の年にはダンスチームの意向を踏まえて、踊りを妨げない衣裳に改めた。2016年には、宇多津商工会青年部からの依頼を受けて、「うたづの町家とおひなさん」の展示企画「現代紙雛」を協同で制作し、その活動の様子はFMサン「さかいで・うたづ歴史探

訪」（2016/2/26）、香川テレビ放送「いきいきワイド」（2016/3/4）、四国新聞<sup>11)</sup>にて紹介された。(写真8)同年、宇多津商工会と本学は、包括的連携協力協定を締結している。続く2017年にも「うたづの町家とおひなさん」の展示企画「現代紙雛2」の制作<sup>4)</sup>を宇多津商工会青年部とのコラボレーションで実施し、岡山放送「みんなのニュース」（2017/3/4）と四国新聞<sup>12)</sup>、宇多津商工会青年部通信「あきない」<sup>15)</sup>で紹介され、この年のゼミ学生はオリブ賞を受賞した。

## 2) 地域貢献（産学連携事業）

この項では、ファッションDコースが15年間に参加した産学連携事業について述べる。宇多津ビブレ（小売業イオン系列）とのコラボレーション「宇多津ビブレ&香川短期大学ファッションショー」の開催を皮切りに、オークラホテル丸亀とのコラボ企画である「ブランドルファッションショー」、ご当地



写真7 雛衣裳制作



写真6 オペラ衣裳制作



写真8 現代紙雛制作

アイドルステージ衣裳制作などを行った。

2007年に宇多津ビブレ1階入口ホールにて開催した「宇多津ビブレ&香川短期大学オータムファッションショー」では、学生たちがモデルとなって、授業で製作した衣服や卒業制作ドレスを披露するとともに、「今シーズン秋冬のファッション情報発信」という企画のもと、宇多津ビブレオリジナルショップの秋のトレンドを紹介した。ファッションDコースの学生が描いたスタイル画を起用した広告ポスター（図5）を宇多津ビブレ1階に掲示し、月刊誌「NICE TOWN」と四国新聞他、新聞社3社に予告記事を掲載。当日の様子は、西日本放送のローカルニュース（2007/9/22/PM15:30）で放映され、月刊誌「NICE TOWN」<sup>9)</sup>にショーの内容が掲載された。

2010年から2回開催された「香川短期大学&オークラホテル丸亀ブランドルファッションショー」は、オークラホテル丸亀との産学協同企画である。（写真9）このブライダルショーは、オークラホテル丸亀の2階チャペルを会場に、学生がモデルとなって卒業制作ドレスを披露するとともに「模範チャペル挙式&シャンパンパーティ」のモデルを務

めた。また、開催予告ポスターにもドレス姿の学生を起用し（図6）、ショーの様子は四国新聞<sup>10)</sup>に紹介された。この産学協同企画により、ゼミ学生は2年連続でオリブ賞を受賞した。

また、2013年に、イオンモール綾川にて開催された「卒業制作ドレス展示」も、ブライダル情報誌を発刊している（株）KG情報との産学連携事業である。（株）KG情報が実施したブライダル相談会開催期間中において、卒業制作であるドレスを展示するという産学連携企画であった。（写真10）

そして、2016年には地域のイベント運営会社より「ご当地アイドル」のステージ衣装制作の依頼



写真9 オークラホテル丸亀「ブライダルショー」



図5 ファッションショーのポスター



図6 ブライダルショーのパンフレット

を受けた。産学連携事業として、「きみともキャンディー」ほか三つのアイドルグループのステージ衣装計10着分に関してデザインから企画し、「2016年丸亀お城まつり」のアイドルライブステージでお披露目した。このゼミ活動の様子は、瀬戸内海放送「スーパ」チャンネル」(2016.5.4)にて紹介された。(写真11)

### 3) 地域への情報発信

服飾研究室では、2010年<sup>13)</sup>と2013年<sup>14)</sup>に、四国新聞メディア(株)オアシス編集室の取材を受けて、地域に向けてファッション関連の情報を発信した。2度の取材には共通のテーマがあり、それは、近代的社会生活を営む現代人にとって永遠のテーマともいえる、「スマートに見せる着こなし術」についてである。反対色をアクセントに取り入れ、眼の錯覚を利用してスマートに見せる方法<sup>5) 6)</sup>を紹介している。



写真10 イオンモール綾川「ドレス展示」



写真11 ご当地アイドル衣装制作

### 9. おわりに

私がファッションデザインコースを引き継いだのは2005年からである。「ファッションデザインコースの軌跡」をまとめて改めて振り返ってみると、途切れることなく地元企業や地方公共団体より声をかけていただき、産官学連携事業に取り組んできたことに気づく。このように連携事業を継続できた影には、私が深い信頼を寄せる3名の助手の方々の支えがあったからである。水口裕美さん、香川璃子さん、木下奈奈さんにこの紙面を借りて厚く感謝を申し上げることとする。ゼミ活動がメディアに載る機会はあっても、それがすぐさま学生募集には結びつかず、ファッションDコースは2016年度入学生を最後に閉じることとなった。創立50周年を期して本学の発展を願うとともに、今後の若手研究者の活躍に期待する。

### 参考文献

- 1) Carl Köhler (1963) *A HISTORY OF COSTUME*, Dover Publications
- 2) Janet Arnold (1985) *Patterns of Fashion*, Macmillan London
- 3) 栗原弘・川村まち子共著 (1995) 『時代衣裳の縫い方』 源流社
- 4) ポール・ジャクソン (2016) 『デザイナーのためのテクニク平面から立体へ』 文化出版局
- 5) 伊藤紀之 (1999) 『被服デザインの体系』 三共出版
- 6) 北岡朝佳 (2010) 『錯視入門』 朝倉書店
- 7) 能登原英代 (2015) 「ファッション教育教材構造化による学習効率の検証」 香川短期大学紀要第42巻119-125

### 参考資料

- 8) 2016年発行 学生便覧 香川短期大学
- 9) 2007/10/20発行 「月刊NICE TOWN」 11月号 No.366 ナイスタウン出版p218
- 10) 2010/2/6発行 四国新聞 四国新聞社
- 11) 2016/3/6発行 四国新聞 四国新聞社

- 12) 2017/3/6 発行 四国新聞 四国新聞社
- 13) 2010/7/16発行 四国新聞オアシス巻頭特集  
「スリムに見える<sup>秘</sup>テクニック」四国新聞メディア  
ア（株）オアシス編集室
- 14) 2013/3/29発行 四国新聞オアシス巻頭特集  
「簡単！着やせテクニック」四国新聞メディア  
（株）オアシス編集室
- 15) 2017/3 発行「宇多津商工会青年部通信“あき  
ない”」vol.124 宇多津商工会青年部